

### 議題3. 日本学生オリエンテーリング連盟規則の改正について

文責：日本学連幹事長 齋藤翔太

本規約のうち、以下のような変更を予定しておりますので、本規約第 47 条に基づき、総会の議決にかけさせていただきます。

#### 第 11 条 （競技結果の報告）

地区学連は対抗戦、記録会などの諸大会の都度、本学連事務局に結果を送付しなければならない。

→（削除）

理由は、これに関してですがここ数年全く行われていないと同時に、前回の幹事会で議論した結果、今後も特に必要のないことであるという結論に至ったためです。

## 議題9. ジェネシスマッピング社との契約更新について

文責：日本学連幹事長 齋藤翔太

平成22年11月5日でジェネシスマッピング社との契約が満期をむかえるにあたって、現在、幹事長の齋藤が学生を代表して、ジェネシスマッピング社との交渉にあたっています。  
(幹事長が代表して行っているのは、前回幹事会の決定によります。)

本交渉において、学連としては以下のような契約内容の変更を希望しています。  
(契約書は、本日配布した活動報告書を参照してください。)

なお、その前提として、今後のジェネシスマッピングの経営主体は、上田さんではなく山川さんになるということを記しておきます。(社名も変更されるようです。)

### 1、第2条の(業務範囲)の変更

「(1)日本学生オリエンテーリング選手権に関する以下の業務の中の b. プログラム・大会報告書の製作、および c. メダル・レプリカの作成の部分の削除。

理由は、地図関連以外のものを直接業者への発注を行うことで、インカレ等の経費の削減を図るためです。

近年加盟員が減少し、昨年度の春インカレからは参加費の値上げ、さらに今年度からは加盟費の値上げをするに至っており、様々な経費節減により何とか賄っている状況なので、現状のこの日本学連及びインカレ運営の苦しい状況をくみ取っていただこうと思っています。

なお、過去のインカレ運営に深く関わってきた人にヒアリングを行った結果、今後地図以外のこと(プログラム、報告書の印刷、メダル、レプリカの作成)をジェネシス社以外に頼むことになっても、多少実行委員会の手間は増えるかもしれないが、運営に問題があるかと言われれば問題ない、という回答をいただいています。

また、これまで搾取されていたマージンには、原稿の体裁を整える、というような意味合いも含まれていました。

しかし、近年のIT技術の進歩で、そのあたりの指導は印刷業者の方から簡単に受けることがで

きるようです。

さらに、ジェネシスマッピング社に頼んできた過去に、以下の事例が存在したようですので、記載しておきます。

- ・見積がなかなかあがってこない
- ・仕様があがってこない
- ・レイアウトを相談なく変更する
- ・広告を相談なく削除する

以上のような理由を以って、このような変更を希望しています。

## 2、第10条(期間)の変更

契約の有効期間を1年に変更。

(お互いに申し出がない場合の自動更新は継続)

こちらに関しては、次期社長の山川さんのお身体の件もありますので、山川さんの健康状態やその他諸々を考慮したうえで、毎年お互いに誠心誠意話し合っていければと思っています。

また、毎年の幹事会および加盟員に、本契約について考える機会を作ろうという私なりの意図も含まれています。

以上のような内容での交渉を行っています。

最後に、これらは私の独断ではなく、当事者を除いた理事方々や、複数人の有識者との意見交換の上で行っていることと、上記のおおよそのことは次期社長の山川氏と同意の上で、現社長の上田氏と交渉を行っていることを強調しておきます。

念のため、今後も私が代表して交渉にあたることに関して、総会での議決をとらせていただきたく存じます。よろしく申し上げます。

## 議題 10. インカレミドル・リレーの際の宿形態について

文責：日本学連幹事長 齋藤翔太

先の春インカレ終了後、春インカレの宿に関するアンケートを行いました。得られた結果をもとに、先の幹事会にて、アンケートで出た不満の解決方法にて議論を行いました（詳しくは第二回幹事会の議事録を参照）。

そこで得られた案について、日本旅行の小林さんにヒアリングを行いましたので、それについて報告いたします。

以下、一問一答形式にて記載します。

### ①

**宿泊を全校強制でなくし、斡旋を日本旅行にお願いするかどうかを選べるというような形態は可能か。**

**もし可能でその形態を適用した場合、申請期限はいつ頃となると予想されるか。**

絶対に不可能か？といわれれば可能ではある。

但し、クオリティを保った宿を安価に提供できる可能性は現行以上に低くなる。

（宿泊施設側も「600人が2泊宿泊するから安く提供してほしい」という交渉と、「最大600人が2泊だけど、何人泊まるかは判らない」という交渉ではどちらにいい条件を提供するかは理解していただけるはず。）

また、現実秋のインカレでは各自申込制を適用しているが、今年は定員を満たせず、昨年確保した宿が足りなくなりました。

申請期限も設けていても秋の例ですと守っていただいたのは5校くらい。

結局先週くらいまで週1校くらい問い合わせをもらった。

つまり、各校に任せると期限はあってもあまり意味はなくなる。

日本旅行なり宿泊施設として決めたい期限はいろいろなのだが、

（もちろん施設は早く確定させたいですし、学生さんたちはぎりぎりまで申し込みをした

いだろう)

今のエントリー期限をもって宿泊人数が大体固まる状態は非常にいいタイミングであるのは間違いありません。

また、結果として確保した宿を使わないとなると地元涉外上の問題になることもある。実際過去にしこりを残したことがあった。

それと現在日本旅行が行っている協賛条件も残念ながら見直さなければいけない可能性は大きいです。

(脅しとかではなく、実入りが不安定な分を考慮しなければならなくなるのは理解してほしい。)

なお、現在の協賛条件とは、

- ・春インカレのプログラム・報告書の各裏表紙
- ・ゼッケン（春秋両方）

を指す。

まとめると、希望制に出来ないことはないけれども、障害がいろいろある。日本旅行としては出来れば全員宿泊制の維持時を希望する。

## ②

**宿のグレードを2段階に分け、事前に選ぶことができるという制度は可能か。**

これは宿泊地によっては可能。

次の岐阜インカレでは、選択性も可能という旨を実行委員会には伝えた。

期限としてはエントリーと同時にというのが現実的かと思う。

ただし、前回の日光や前々回の箱根（真鶴泊）などでは、旅館組合、民宿組合を経由しているため選択することは出来ない。

前回の日光でも基本的には無作為に近い状態で機械的に人数をベースに宿泊先を割り振るという取扱をしている。

ただし、前年の宿泊先であまりにも「はずれ」を引いた大学さんに対しては、多少考慮することはしなくもない。具体的な基準は存在しないが。

③

バスについて。

おそらくインカレの運営の都合上、選手の会場までの輸送はバスでの一括の方がいいのであろうと予想されるが、もし①が適用されて幹旋を希望しない大学が出た場合、輸送についての不便はあるか。

なおこれに関しては、幹事会内では、宿付近までバスが回る必要はなく、幹旋を希望しなかった団体も含め全員がアクセスしやすい場所をバスのストップに設定すればいいのではないかと、という意見も出ていた。

駅を起点にして輸送すれば大きな問題はなさそうだが、これも場所によりけり。

たとえば今度の岐阜インカレだと推定宿泊箇所も広範囲になり、公共交通とあわせての移動だと時間的なロスがかなり出そうである。

駅から歩ける範囲が会場ならそもそも輸送の必要はなくなるだろうし、そうすれば参加費も安く済む利点はある。

ただその代わり、Aファイナルだけ別のところへ、とかは出来ない。

私見ではあるが、バスについてはたぶん日本旅行より実行委員会の負担や制約の増加という障害のほうが大きいように思う。

#### 議題 15. 技術委員会報告（代理報告）

4 月 ユニバー選考会（世界選手権選考会と併設）開催

6 月 技術委員会定例会を開催

6 月 第一回学連合宿兼ユニバー合宿開催@八ヶ岳

7 月 ユニバーシアード派遣

11 月 第二回学連合宿開催@関西

#### \*その他

インカレロング選手配分実施

インカレミドル選手配分実施

インカレロングのシードを理事会に推薦

インカレでのリテラメッド社からの協賛の窓口

#### \*お知らせ

技術委員は随時募集中です（現役でも OK）

地図調査やコースプランや計センなど、講習会を開いて欲しい内容があればご連絡下さい

#### 議題 16. テレインコントロールワーキンググループ報告（代理報告）

特になし